

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

論述 (1行30字 2行×2・3行×3・4行×1・5行×1 計22行)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

第1問～第4問とも昨年度と同様の出題形式であった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 A 2行 B 4行	律令国家の命令伝達	提示された文章から解答の方向性は把握しやすかったと思われるが、行間を繋ぐ情報を盛り込めたか否かで得点差がついたであろう。	やや易
第2問	論述 5行	朝廷の経済基盤と室町幕府の対応	15世紀後半以降の室町幕府の財政状況や、応仁の乱を契機とする室町幕府の権威失墜が想起できれば解答の骨子は整ったであろう。	標準
第3問	論述 A 3行 B 2行	A江戸幕府の村における鉄砲政策 B生類憐みの令	A刀狩令で武器を没収した理由は基本事項であり、それとの対比で考えて解答を構成していけばよいので、取り組みやすかったであろう。 B生類憐みの令は想起できても、その他の政策と関わらせて綱吉期の社会状況を総括するのが、やや難しかったと思われる。	標準
第4問	論述 A 3行 B 3行	労働生産性上昇の要因	A・Bともに問題文と史料の情報から、当該期の具体的事例を指摘できたかがポイント。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

できるだけ多くの過去問にあたり、日頃の学習にそれを活かしていくこと。その際、できれば解答を作成し、添削指導を受けることが望ましい。そして、第1問から第3問でみられる提示された文章の答案への反映の仕方にできるだけ早く慣れたい。また、第4問の近現代に関しては正確な知識が要求されるので、量よりも質を意識した学習を進めたい。さらに、文化史を不得意分野にしないこと。作品暗記だけの文化史学習では通用しないことを意識して、各文化の特徴を把握しつつ政治・外交・経済との関わりに十分注意すること。